

**AIG、事業再編関連費用により、
2010年第2四半期の自社帰属純損失は27億ドルと公表、
継続事業に属する保険事業の収益は引き続き安定**

2010年8月6日（ニューヨーク発）：AIGは、2009年第2四半期が18億ドルの純利益（希薄化後、普通株式1株当たり2.30ドルの利益）を計上したのに対し、2010年第2四半期は、自社に帰属する純損失が27億ドル（希薄化後、普通株式1株当たり3.96ドルの損失）になったと公表しました。2010年第2四半期の損失は、主に非継続事業に含まれる33億ドルの非現金のれん代減損費用によるものでした。

2010年第2四半期は13億ドルの修正純利益を計上しました（2009年第2四半期は11億ドル）。これには、継続保険事業からの営業利益22億ドル、住宅ローン保証保険会社の営業利益2.26億ドル、アジア生命保険事業セグメント（主に、アメリカン・インターナショナル・アシユアランス・カンパニー・リミテッド（AIA））の利益6.04億ドル、金融受け皿会社（Maiden Lane III）の評価益3.58億ドルが含まれ、ニューヨーク連邦準備銀行（FRBNY）与信枠および第三者債務の支払利息および償却費、投資資産減損費用、その他事業再編および訴訟和解に関する正味費用、繰延税金資産の減少により一部相殺されました。

第2四半期業績

（単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く）

	2010年	2009年	希薄化後1株当たり	
			2010年*	2009年
AIGに帰属する純利益（損失）	\$ (2,656)	\$1,822	\$(3.96)	\$2.30
修正純利益（損失）算出のために、損失を加えて利益を控除：				
正味実現キャピタルロス、税引後	(564)	(899)		
事業売却の純利益（損失）、税引後**	93	(327)		
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジの利益（損失）、税引後	(102)	676		
非継続事業の純利益（損失）***	(3,420)	1,229		
AIGに帰属する修正純利益（損失）	\$1,337	\$1,143	\$1.99	\$1.71

* シリーズCの優先株主への純利益（損失）帰属後の普通株主に帰属する純利益（損失）に基づき算出。

** 2010年には英ブルーデンシャルからAIGに支払われた解約手数料2.28億ドルが含まれる。

*** 非継続事業とは、アメリカン・ライフ・インシュアランス・カンパニー（ALICO）、南山人寿保険（ナンシャン）を指し、ALICOに割り当てられていたのれん代に関する減損費用33億ドルを含む。

AIGに帰属する修正純利益を構成する第2四半期業績の要約

(単位：百万米ドル)

	2010年	2009年
継続事業に属する保険事業の税引き前営業利益：		
損害保険事業	\$ 955	\$ 1,014
北米内生命保険およびリタイアメント・サービス事業	1,054	254
AIG スター生命および AIG エジソン生命	216	239
小計 - 継続事業に属する保険事業	2,225	1,507
金融サービス事業	42	(103)
アジア事業 (AIA、AIRCO)	604	314
FRBNY への支払利息および償却費	(755)	(1,374)
FRBNY が保有する非支配的で議決権のない任意償還条項付きの優先 順位の高い、および優先順位の低い優先受益権	(508)	-
第三者債務の支払利息	(557)	(547)
その他	594	1,042
法人税等	(308)	304
AIG に帰属する修正純利益	\$ 1,337	\$ 1,143

AIGは法人税等を完全に認識し切れないため、今期の活動の法人税効果は繰延税金資産にあたる評価引当金の変動でほぼ相殺されていることから、別途明記していない限り、本プレスリリースで言及する値はすべて税引き前の値です。

アメリカン・ライフ・インシュアランス・カンパニー (ALICO) と南山人寿保険 (ナンシャン) の売却を発表した結果、現在両社の業績は非継続事業として計上されています。また、それに応じて比較対象期間の値も修正し、上表の「第2四半期業績の要約」にも算入されていません。ALICO は前年同期が 7.18 億ドルの純利益であったのに対し 2010 年第 2 四半期は 28 億ドルの純損失に、ナンシャンは 7,900 万ドルの利益に対し 2.59 億ドルの純損失を計上しました。2010 年第 2 四半期の ALICO の業績には、同社に割り当てられていたのれんに関連する減損費用 33 億ドルが算入されています。この費用を除くと、実現キャピタル・ロスの減少、トレーディングの利益による投資リターンの上昇を主な要因に、ALICO の 2009 年税引き前利益は大幅に増加しました。ナンシャンの 2010 年第 2 四半期業績では、売却価格引き下げ調整が要因となりました。

継続事業に属する保険事業の税引き前利益は、前年同期が 15 億ドルであったのに対し、2010 年第 2 四半期は 22 億ドルに増加しました。

損害保険事業

チャーティスの 2010 年第 2 四半期の正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) 調整前営業利益は、前年同期が 10 億ドルであったのに対し、9.55 億ドルとなりました。第 2 四半期には、主に米南東部の洪水、ハリケーン「アレックス」、米国のあられを伴う嵐、石油掘削施設ディープウォーター・ホライズンの爆発、アイスランドの火山噴火に関連して異常災害損失約 2.87 億ドルが発生しました。ディープウォーター・ホライズンの爆発とその後のメキシコ湾への原油流出に関連して、2,300 万ドルの施設損傷に関する損失が生じました。チャーティスは、ディープウォーター・ホライズンに対する災害エクスポージャーの監視を続けており、2010 年 6 月 30 日時点での支払備金でこの事象に帰属すると見積もられる損失を十分カバーできると考えています。ただし、法科学的調査が完了していないこと、汚染除去が完了していないこと、訴訟が始まったばかりであることから、請求見積額は時間の経過

に伴い変動する可能性があります。異常災害損失を除くと、チャーティスの正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）調整前営業利益は、パートナーシップ収入の増加を主因として前年同期と比べて22%増加しました。

コンバインド・レシオは、前年同期が98.2であったのに対して、2010年第2四半期は102.0となりました。異常災害損失を除くと、コンバインド・レシオは前年同期が98.2であったのに対して、当期は98.3となりました。保険料収入の減少、長期インセンティブ報酬コスト、事業構成の変化に関連した取得費用の増加、新たな財務・業務システムの完成による一般管理費の増加などを要因に、経費率は前年同期から2.0ポイント上昇して29.9となりました。

世界全体での正味収入保険料は、前年同期比で1.6%減少し、78億ドルとなりました。この要因となったのはチャーティスのリスク・マネジメント・イニシアチブと、厳しい価格競争のある事業分野における料率規律の継続ですが、外国為替および利益率が高い事業の戦略的成長の影響により一部相殺されました。チャーティスは特定の損害保険分野におけるエクスポージャーの蓄積を減らそうと、リスク・マネジメント・イニシアチブを積極的に推進しています。チャーティスでは収入保険料が増加し、契約維持率が上昇し、新規契約の申込みは増え、料率は安定していますが、正味収入保険料が依然として厳しい経済情勢の影響にさらされていることは否めません。

北米内生命保険およびリタイアメント・サービス事業

北米内生命保険およびリタイアメント・サービス事業は、現在、サンアメリカ・ファイナンシャル・グループというブランドに変更しており、2010年第2四半期の正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）調整前営業損益は、前年同期の2.54億ドルの利益に対して、11億ドルの利益となりました。このように大幅に改善した要因は、パートナーシップからの正味投資利益の増加、金融受け皿会社（Maiden Lane II）における留保持ち分の公正価値の2.26億ドルの増加、さらに正味実現キャピタル・ロスの増加による繰延保険獲得費用（DAC）の減少と販売促進費の償却などです。正味実現キャピタル・ロスは前年同期を上回りました。この主な要因は、2010年第2四半期に株式市況が低迷し、長期金利が低下したことで経済的ヘッジ控除後の組み込まれているデリバティブ負債の公正価値が変動し、7.2億ドル増加したことです。

2010年6月30日現在の運用資産は、前年同期比10%増の2,338億ドルに拡大しました。これは、2009年後半から2010年第1四半期にかけて株式市場がプラスのリターンを記録し、債券相場が上昇したためです。収入保険料、預かり資産、その他の収入は、前年同期比24%増の計50億ドルとなりましたが、これは個人定額年金、グループ・リタイアメント商品、個人変額年金、いずれの販売も増加したためです。個人定額年金の販売は、多数の銀行での販売が回復したことから増加しました。個人変額年金の販売は、競争力のある商品の拡充、多数の主要ブローカー/ディーラー事業体による販売回復、およびホールセール事業体の生産性向上により増加しました。解約が一段と通常に近い水準に戻ったため、グループ・リタイアメント商品、個人定額年金、個人変額年金の解約率は前年同期と比べて改善しました。生命保険の販売は、独立代理店を通じた一部の変額ユニバーサル生命保険商品の販売が増加したことから、前年同期と比べて大幅に増加しました。さらに、キャリア・エージェントを通じたユニバーサル定額生命保険の販売は、前年同期と比べて大幅に増加しました。

北米外生命保険およびリタイアメント・サービス事業

ALICO およびナンシャンを非継続事業に分類した後、AIGの残りの北米外生命保険およびリタイアメント・サービス事業は、AIGスター生命保険株式会社（AIGスター）とAIGエジソン生命保険株式会社（AIGエジソン）、AIA、およびアメリカン・インターナショナル・

ラインシュアランス・カンパニー・リミテッド (AIRCO) を通じて行われています。

日本における事業では、AIG スター、AIG エジソンの 2010 年第 2 四半期の正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) 調整前営業利益は、前年同期の 2.39 億ドルに対して、2.16 億ドルとなりました。この要因は、パートナーシップおよび投信信託のリターンの減少と、2009 年の高水準の失効による保有契約の減少にあります。

新契約年換算保険料は 29%増加して、1.7 億ドルに達しました。金融危機以降、対面販売チャネルの販売状況が回復しているため、生命保険 (死亡保障商品) の売上げは増加しました。医療保険の売上げは 2010 年初頭の新商品販売によって伸びました。年金保険の売上げは、円高と、AIG スターならびに AIG エジソンの商品の販売を控えていた銀行での販売が徐々に再開したことにより、満期を迎えた年金保険の再取込率が高水準に戻ったため、販売が増加しました。

AIG は先日、規制当局の承認と市場環境に従い、香港株式市場への上場で AIA の株式公開を行う計画を発表しました。第 2 四半期に、英ブルーデンシャルへの売却合意を解消したことにより、AIA は AIRCO と共にアジア生命保険事業セグメントの継続事業として再分類されました。アジア生命保険事業セグメントの事業のファンダメンタルズは依然底堅く、税引き前営業利益は、前年同期の 3.14 億ドルに対して、6.04 億ドルとなりました。この利益の大部分は AIA によるもので、正味投資収益の増加と、2009 年のフィリピンでの損失認識費用が主な要因となって、AIA の利益は前年同期と比べて 2 倍になりました。

金融サービス事業

2010 年第 2 四半期、金融サービス事業部門は、前年同期の 1.03 億ドルの税引き前損失に対して、4,200 万ドルの税引き前利益を計上しました。インターナショナル・リース・ファイナンス・コーポレーション (ILFC) の営業利益は、AIG ファイナンシャル・プロダクツ・コープ (AIGFP) の損失により相殺されました。

AIGFP は、事業とポートフォリオの段階的縮小に取り組んでいます。2010 年第 2 四半期の営業損失は 1.32 億ドル計上し、前年同期と比べてほぼ横ばいでした。AIGFP は 2010 年第 2 四半期に、スーパー・シニア・クレジット・デフォルト・スワップ・ポートフォリオに関連して、1.61 億ドルの未実現評価益を計上しました。これに対して前年同期には 6.36 億ドルの未実現時価評価益を計上しました。2010 年第 2 四半期に会社間借入金の支払利息と、ポートフォリオの継続的縮小が営業損益に及ぼした効果は、前年同期と比べて減少しました。クレジット・スプレッドの変動が AIGFP の資産と負債の評価額に及ぼした正味の影響に関連して、AIGFP に好ましい結果がもたらされました。

ILFC は、前年同期が 3.35 億ドルの営業利益を計上したのに対して、2010 年第 2 四半期は 1.82 億ドルの税引き前営業利益を計上しました。2010 年 7 月 6 日、ILFC は航空機 6 機を第三者に売却する契約を締結しました。市況により、2010 年第 2 四半期に 6,000 万ドルの資産減損損失を計上しました。また 2010 年第 2 四半期の業績悪化の要因としては、支払利息の増加、整備引当金の増加がありました。2010 年 6 月 30 日現在、ILFC は 2011 年から 2019 年に受け渡し可能な、新たに 115 機の航空機の購入を確約しています。購入価格合計は 135 億ドルに達すると見積もられますが、その大部分の支払期限は 2015 年以降で、2011 年中の支払い額は 2.48 億ドルとなります。

アメリカン・ジェネラル・ファイナンス・インク (AGF) は、前年同期の 2.02 億ドルの営業損失に対して、2010 年第 2 四半期には 1,100 万ドルの営業損失を計上しました。税引き前損失が減少した主因は、2010 年第 2 四半期に AGF の金融債権の信用度のトレンドが良好で、貸倒引当金が減少したことです。AGF は、外貨建て債務の為替差益、金融債権の公正

価値引当金の減少、費用の減少により恩恵を受けました。これらの好ましい変化は、AGFの流動性管理の一環として不動産ポートフォリオの2009年の販売を反映しているファイナンス料収入の減少により、一部相殺されました。AIGは引き続き、AGFへの投資24億ドルのすべてあるいは大部分の売却の可能性など戦略的選択肢を模索しています。この売却により計上される収入額によっては、AIGは損失を被る可能性もあり、個別の報告期間の連結業績に重大な影響をもたらす可能性があります。

その他の事業

AIG傘下の住宅ローン保証保険会社であるユナイテッド・ギャランティ・コーポレーション(UGC)の税引き前損益は、前年同期の4.88億ドルの損失に対し、2010年第2四半期は2.26億ドルの利益を計上しました。これは、第一抵当権付、第二抵当権付および国際商品の新規に報告された延滞件数の減少、既存の第一抵当権付および国際商品の不良債権処理の改善、一部の第二抵当権付保険契約のストップ・ロス・リミットの認識によるもので、前年比2.32億ドルのプラスとなりました。

金融受け皿会社(Maiden Lane III)における持ち分の公正価値は、前年同期の10億ドルに比べて、2010年第2四半期には3.58億ドルの増加となりました。

FRBNYの与信枠に関する支払利息は、前年同期の14億ドルに対して、2010年第2四半期は7.55億ドルとなりました。この主な要因は、AIAおよびALICOの特別目的会社(SPV)の優先持ち分発行による融資残高の減少によるものです。

未配分の本部経費の増加は、2010年第2四半期に、2005年における過年度の財務諸表の訂正をめぐる重要な集団訴訟に関連する費用を計上したためです。2010年第2四半期の資産運用事業の業績には、前年同期の2.86億ドルの営業損失に対して、不動産投資の評価減の縮小によって1.75億ドルとなった正味実現キャピタル・ゲイン(ロス)調整前の営業損失を含んでいます。

2010年6月30日現在のトータル・エクイティは、2009年12月31日現在の981億ドルと比して46億ドル増の1,027億ドルに拡大しました。

2010年上半期業績

(単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く)

	2010年	2009年	希薄化後1株当たり	
			2010年*	2009年
AIGに帰属する純利益(損失)	\$(799)	\$(2,531)	\$(1.19)	\$(28.29)
修正純利益(損失) 算出のために、損失を加えて利益を控除:				
正味実現キャピタル・ロス、税引後	(851)	(3,282)		
事業売却の純利益(損失)、税引後	17	(155)		
富士火災海上保険のバーゲン・パーチェス・ゲイン、税引後	406	-		
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジの利益(損失)、税引後	(196)	558		
非継続事業の純利益**	(3,105)	1,569		
AIGに帰属する修正純利益(損失)	\$2,930	\$(1,221)	\$4.37	\$(8.99)

* シリーズCの優先株主への純利益(損失) 帰属後の普通株主に帰属する純利益(損失)に基づき算出。

** 非継続事業とは、アメリカン・ライフ・インシュアランス・カンパニー(ALICO)、南山人壽保険(ナシヤン)を指し、ALICOに割り当てられていたのれん代に関する減損費用33億ドルを含む。

2010年第2四半期について、AIG社長兼CEOのロバート・H・ベンモシェは次のようにコメントしました。「AIGの継続事業に属する保険事業の業績は依然堅調ですが、事業再編計画を実行し、米国政府による公的支援からの離脱に向けて準備を進めています。全体の戦略は変わっていません。納税者への返済のために、AIAおよびALICOを、これらの魅力的な営業基盤の独自の強みを反映した価格で、できるだけ速やかに現金化することに重点を置いています。ALICOの売却は計画どおりに進んでおり、第4四半期に完了する見込みです。最近、規制当局の承認を前提に、マーケットの状況次第で、AIAの上場計画を再び進めることとしました。またAIAの最高経営責任者（CEO）にマーク・タッカー氏を指名することを発表しました。彼の上場会社での経験、実績、関係、判断、リーダーとしての資質などは、私たちの意欲的な目標の達成の助けになるでしょう。この2点により、ニューヨーク連邦準備銀行（FRBNY）に対する債務を大幅に削減し、持続可能な資本構造の再建に向けて大きく前進できると考えております。これまでのFRBNY与信枠利用可能額の削減と同様に、調達資金をFRBNY与信枠の債務残高返済に充当すると、前払い委託資産の前倒し償却が一段と進むと思われれます。さらに第2四半期には、AIGはALICOに関連する非現金のれん代の減損33億ドルを計上しました。この費用は、AIAの売却合意の解消に関連して英ブルーデンシャルから支払われた2.28億ドルの手数料により、一部相殺されました。AIGは2010年第1四半期の業績に対する遡及調整として、富士火災海上保険株式会社の持ち分取得によるバーゲン・パーチェス・ゲインを計上しました。このいずれの項目も、AIGに帰属する修正純利益には含まれていません。最後になりますが、以前発表したとおり、2005年における過年度の財務諸表の訂正をめぐる重要な集団訴訟の和解で合意し、この問題を終わらせることができました。」

「重要なことですが、継続事業に属する保険事業の営業利益は依然底堅く安定しており、チャーティス、サンアメリカ・ファイナンシャル・グループ、AIGスター生命、およびAIGエジソン生命を合計すると、22億ドルもの税引き前営業利益を獲得しました。非常に競争が激しい市場状況の中でも、広範囲にわたる販売網、顧客基盤、および従業員層を通じてフランチャイズを強化するため、役職員一同懸命に努力を続けています。引き続き、フランチャイズの力の維持あるいは強化、効率性および透明性の改善、リスクとリターンバランスの改善による、中核事業の強化に重点を置いています。また、AIA上場の機会を得たことを歓迎しており、その準備を懸命に進めています。売却に向けた道筋は変わったものの、AIAの事業のファンダメンタルズ、市場でのリーダーシップ、財務状態、収益性は底堅いまま変わっていません。」

「住宅ローンのトレンドが回復の兆しを見せる中、UGCは2四半期連続で利益を計上し、リスク選択の改善、効果的な損失の軽減、保険金請求の管理などを通じた差別化に重点を置いています。」

「航空業界のベテラン、アンリ・クープロン氏が社長兼CEOとしてILFCに入社したことを発表しました。ILFCは、アンリ氏のリーダーシップの下、航空機リース業界で市場リーダーの立場を維持すると考えます。」

「AIGFPは業務縮小とリスクの排除において前進を続けています。適当な時期に、AIGが投資および債務ポートフォリオを直接引き継ぎ、キャピタル・マーケットにはデリバティブ・ポートフォリオのみを残す予定です。」

「当社は、事業の一段の安定化と強化に引き続き力を注いでいますが、事業再編の継続、未済取引の完了、ならびに負債比率が高い資本構造の改善計画策定も同時に進めております。米国政府に債務返済するための長期的な取り組みに従い、数週間前からFRBNYの与信枠を返済し、政府がAIGとの所有関係を終えられるようにするための戦略案について、FRBNY、財務省、AIGクレジット・ファシリティ・トラストの受託者との話し合いを始めています。」

AIG の安定化ならびに AIG の債務返済に向けた経営陣の戦略の進捗状況

2008年9月より、AIGは主要事業の価値を維持・向上させ、秩序ある資産売却計画を実行し、将来的な事業価値を認識しました。AIGは、流動性と資本の柔軟性を維持しながら価値の最大化を図るために、継続的にこの計画を見直しています。

AIA の取引：

- 2010年6月1日、英ブルーデンシヤルからAIA買収に関する条件の修正が提示されましたが、AIG取締役会はこの提案を拒否しました。2010年6月2日、AIGと英ブルーデンシヤルはこの取引を解消させました。このため、AIGは12ヶ月以内にAIAの売却が完了する可能性はないとの結論に達しました。したがって、AIAは売却目的保有事業、あるいは非継続事業としては表示されていません。
- 2010年7月、AIGは規制当局の承認と市場環境次第で、香港株式市場にAIAの株式公開を行う計画を発表しました。

AIGFPの清算状況：

- AIGFPのデリバティブ・ポートフォリオの想定元本は、2009年12月31日時点の約9,407億ドルから36%減少し、2010年6月30日時点では約6,024億ドルとなりました。これにはスーパー・シニア・クレジット・デフォルト・スワップ・ポートフォリオの想定元本の1,835億ドルから895億ドルへの減少が含まれています。
- AIGFPはポートフォリオのトレードポジションを減らし、2009年12月31日時点の約16,100から26%減少し、2010年6月30日時点では約11,900となりました。
- AIGFPが提供している正味担保金額は、2009年12月31日時点の159億ドルから減少し、2010年6月30日時点では136億ドルとなりました。

政府支援の状況：

- 2010年6月30日時点で、AIGのFRBNYの与信枠からの借入残高は205億ドルで、未払いの複利利息および手数料は60億ドルでした。2010年6月30日から2010年7月28日の間に、借入残高はさらに12億ドル減少しました。
- 2010年6月30日時点で、米財務省のシリーズFの優先株式に関連したコミットメント枠による利用可能残額は223億ドルでした。

#####

AIGの補足財務情報は、ウェブサイト (<http://www.aig.com/>) の投資家向けセクションでご覧いただけます。

#####

将来情報に関する警告的記述

この財務報告には、1995 年米国私的証券訴訟改革法の定義における「将来予測情報」にあたる可能性がある予測および見解が含まれている場合があります。これらの予測および見解は過去の事実ではなく、将来の出来事に関する AIG の考えを示しているに過ぎませんが、その多くは本質的に不確実で AIG が制御できないものです。

これらの予測および見解は、特にニューヨーク連銀 (FRBNY) ならびに米国財務省との完了した取引の結果、処分の件数、規模、条件、費用、収益、処分の時期とこれらが AIG の事業、財務状況、業績、キャッシュフロー、流動性に及ぼし得る影響 (AIG はいかなるときでも、また時間の経過と共に、いくつかの事業の売却計画を変更することがあります)、AIG の資産売却プログラムの結果に左右される長期的な事業構成、サブプライム・モーゲージ、モノライン保険会社、住宅用および商業用不動産市場に対する AIG のエクスポージャー、AIG 親会社からの事業の分離、従業員の維持とモチベーションの向上に関する能力、そして顧客維持、成長、商品開発、市場での地位、業績、引当金、ディープウォーター・ホライズンに対する災害エクスポージャーに関する AIG の戦略などを考慮に入れることがあります。AIG の実際の業績ならびに財務状況が、これらの見解および記述で示されていた予測から場合によっては大きく逸脱する可能性があります。AIG の実際の業績が、特定の見解や記述で示された予測から場合によっては大きく逸脱し得る要因は、AIG の事業再編計画で予定されていた取引の失敗、世界的な信用市場の動向、およびパート I 項目 2 (「経営陣による財務状況と業績の検討および分析」、パート II 項目 1A、2010 年 6 月 30 日末の AIG のフォーム 10-K の四半期報告書の「リスク要因」、パート II 項目 1A、2010 年 3 月 31 日末の AIG のフォーム 10-K の四半期報告書の「リスク要因」、パート I 項目 1A、2009 年 12 月 31 日期末の年度についての AIG のフォーム 10-K の年度報告書の「リスク要因」などで取り上げられている事項などがあります。AIG は、書面また口頭にかかわらず、見解やその他の記述を更新・変更する義務を負わないとともに、その義務を明確に否認します。こうした更新や変更は、新しい情報、将来の事象その他の結果として、随時生じる可能性があります。

AIG について

AIG グループは世界の保険・金融サービス業界のリーダーであり、130 以上の国・地域で事業展開しています。AIG グループ各社は、世界最大級のネットワークを通して、個人・法人のお客様に損害保険を提供しています。このほか、生命保険事業、リタイアメント・サービス事業も AIG グループの世界的な事業となっています。持ち株会社 AIG, Inc.の株式はニューヨーク、アイルランド、東京の各証券取引所に上場されています。

#####

規定 G に関する注釈

財務ハイライトを含めた本プレスリリースには、一部、非 GAAP 型の財務数値が含まれています。本リリース中の関連した表、および AIG 本社のウェブサイト(<http://www.aig.com/>)の投資家向け情報セクションでご覧いただける 2010 年第 2 四半期の補足財務情報には、規定 G に基づく、最も GAAP に類似した数値が示されています。

本プレスリリースでは、当社の業績を評価する上で財務情報を利用される投資家の方やその他の方々にとって最も意味があり最も透明性が高いと考えられる方法で業績を示しています。これらの表示方法の一部には、非 GAAP 型の財務数値が用いられています。GAAP に基づく表示に加え、場合によって、AIG は市場の混乱に伴う事項、金融受け皿会社留保分、売却の影響、FRBNY の与信枠に関連した金利および分割償還、一時的でない減損の認識、事業再編に関連する活動、ALICO U.K.の投資型商品、シリーズ C 優先株の転換、実現キャピタル・ゲイン（ロス）、変動持分事業体の影響、要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ活動、のれん代の減損の影響、税金評価引当金、信用評価の調整、未実現評価益（評価損）、UGC 業績、異常災害関連損失や外国為替レートの影響ならびに富士海上火災の株式取得に関連するバーゲン・パーチェス・ゲインも示しています。

いずれの場合も、AIG はこれらの項目を除外することで、投資家の皆様が AIG の基本的な事業の業績をより良く把握することができると考えています。非 GAAP 型の提示による情報を提供することは、投資家やアナリストの皆様にとって有益であり、GAAP 型の提示による情報よりも意味があると考えています。

投資利益（または損失）および実現キャピタル・ゲイン（ロス）を生み出すための収入保険料の投資が、生命保険・損害保険事業の中心となりますが、実現キャピタル・ゲイン（ロス）の算定は、保険引受けプロセスとは関係していません。さらに、GAAP に基づく会計方針に従った場合、未実現の一時的な価値の下落以外の結果から損失が生じてくる場合があります。このため、あらゆる特定の期間についての投資利益および実現キャピタル・ゲイン（ロス）は、四半期毎の事業結果を示すことにはなりません。

AIG は、事業利益（損失）を示すことは、投資家の皆様にとって有益だけでなく、損害保険事業の結果を理解していただくために非常に重要となる財務情報を提供することになると考えています。損害保険会社の営業利益は、事業利益（損失）、正味投資利益および実現キャピタル・ゲイン（ロス）という 3 つの要素を含んでいます。事業利益（損失）の開示がなければ、保険会社が中核的事业活動でどれほど成功を収めているのか、あるいは、引受けリスクはどうかを判断することは不可能です。事業利益（損失）の情報を開示せずに、投資利益と正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）を営業利益に含めた場合には、引受損失を覆い隠してしまう可能性があります。正味投資利益額は、引受結果と全く関係のない、金利やその他の要素の変化が原動力となる場合があります。

事業利益（損失）は、損害保険事業の業績を判断するのに AIG の上級経営幹部が用いている重要な測定基準で、保険業界において業績の標準的な測定基準として用いられています。さらに、同じ理由から、AIG を追跡している証券アナリストも、分析の際は実現資本取引は除いており、当社に対し、GAAP 情報以外の情報の提供を常に要請してきています。

AIG は、保険当局により定められている、もしくは認められている会計原則に従って生命保険とリタイアメント・サービス事業の売上高（収入保険料、預り金およびその他の収入）、総収入保険料、正味収入保険料およびコンバインド・レシオを示していますが、これは、これらの会計原則が保険業界で使用されている業績の標準的な測定方法であるため、AIG の保険業界での競合他社との比較をより意味のあるものとするという理由によるものです。

アメリカン・インターナショナル・グループ・インク財務ハイライト*
(単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く)

	6月30日までの3ヶ月間			6月30日までの6ヶ月間		
	2010年	2009年(a)	増減(%)	2010年	2009年(a)	増減(%)
損害保険事業：						
正味収入保険料	\$ 7,792	\$ 7,919	(1.6) %	\$ 15,436	\$ 15,652	(1.4) %
正味既経過保険料	7,733	8,017	(3.5)	15,374	16,295	(5.7)
事業利益 (損失)	(158)	145	-	(350)	422	-
正味投資利益	1,113	869	28.1	2,184	1,304	67.5
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) 調整前利益および バーゲン・パーチェス・ゲイン	955	1,014	(5.8)	1,834	1,726	6.3
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (b)	58	(37)	-	195	(645)	-
バーゲン・パーチェス・ゲイン(c)	-	-	-	406	-	-
税引き前利益	1,013	977	3.7	2,435	1,081	-
損害率	72.1	70.3		71.8	70.1	
経費率	29.9	27.9		30.5	27.3	
コンバインド・レシオ	102.0	98.2		102.3	97.4	
北米内生命保険およびリタイアメント・サービス事業：						
収入保険料およびその他の売上	1,315	1,331	(1.2)	2,630	2,771	(5.1)
正味投資利益	2,628	2,221	18.3	5,335	4,151	28.5
正味実現キャピタル・ロス調整前利益	1,054	254	-	2,177	94	-
正味実現キャピタル・ロス(b)	(966)	(54)	-	(1,762)	(1,721)	-
税引き前利益 (損失)	88	200	(56.0)	415	(1,627)	-
北米外生命保険およびリタイアメント・サービス事業：						
収入保険料およびその他の売上	3,377	3,100	8.9	6,611	6,222	6.3
正味投資利益	1,239	2,428	(49.0)	2,306	3,306	(30.2)
正味実現キャピタル・ロス調整前利益	820	553	48.3	1,602	1,275	25.6
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (b)	20	(330)	-	(41)	(792)	-
税引き前利益	840	223	-	1,561	483	-
金融サービス事業：						
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ活動および 正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) 税引き前の営業利益 (損失)	42	(103)	-	(432)	(1,193)	-
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ活動 (b)	-	4	-	-	6	-
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) (b)	(11)	223	-	24	181	(86.7)
税引き前利益 (損失)	31	124	(75.0)	(408)	(1,006)	-
正味実現キャピタル・ゲイン、事業売却の純利益 (損失)、および会社間 連結・消去調整前その他の項目	(964)	(1,199)	-	(1,243)	(4,986)	-
その他の正味実現キャピタル・ゲイン (b)	241	265	(9.1)	332	343	(3.2)
事業売却の純利益 (損失)	198	(566)	-	122	(307)	-
会社間連結・消去調整 (b)(d)	156	147	6.1	146	(140)	-
継続事業のタックス・ベネフィット調整前利益 (損失)	1,603	171	-	3,360	(6,159)	-
タックス・エクスペンス (ベネフィット)	311	(415)	-	(112)	(1,284)	-
継続事業の純利益 (損失)	1,292	586	-	3,472	(4,875)	-
非継続事業の純利益 (損失)、税引き後	(3,407)	1,259	-	(3,082)	1,587	-
純利益 (損失)	(2,115)	1,845	-	390	(3,288)	-
控除：						
非支配的持ち分に帰属する継続事業の純利益 (損失)：						
FRBNY が保有する非支配的で議決権のない任意償還条項付きの優先 順位の高い、および優先順位の低い受益権	508	-	-	1,027	-	-
その他	20	(7)	-	139	(775)	-
非支配的持ち分に帰属する継続事業の利益 (損失)	528	(7)	-	1,166	(775)	-
非支配的持ち分に帰属する非継続事業の利益	13	30	(56.7)	23	18	27.8
AIG に帰属する純損失	(2,656)	1,822	-	(799)	(2,531)	-
AIG 普通株主に帰属する純損失	\$ 538	\$ 311	-	\$ (161)	\$ (3,826)	-

財務ハイライト (続き)

	6月30日までの3ヶ月間			6月30日までの6ヶ月間		
	2010年	2009年(a)	増減(%)	2010年	2009年(a)	増減(%)
AIG に帰属する純利益 (損失)	\$ (2,656)	\$ 1,822	- %	\$ (799)	\$ (2,531)	- %
AIG に帰属する非継続事業の利益、税引き後	(3,420)	1,229	-	(3,105)	1,569	-
事業売却の純利益 (損失)、税引き後	93	(327)	-	17	(155)	-
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス)、税引後	(564)	(899)	-	(851)	(3,282)	-
要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジの損失、税引後	(102)	676	-	(196)	558	-
バーゲン・パーチェス・ゲイン	-	-	-	406	-	-
AIG に帰属する調整後純利益 (損失)	\$ <u>1,337</u>	\$ <u>1,143</u>	17.0	\$ <u>2,930</u>	\$ <u>(1,221)</u>	-
普通株式1株当たり利益 (損失) - 希薄化後:						
AIG 普通株主に帰属する純利益 (損失)	\$ <u>(3.96)</u>	\$ <u>2.30</u>	-	\$ <u>(1.19)</u>	\$ <u>(28.29)</u>	-
AIG 普通株主に帰属する調整後純利益 (損失)	\$ <u>1.99</u>	\$ <u>1.71</u>	16.4	\$ <u>4.37</u>	\$ <u>(8.99)</u>	-
AIG 株主資本の普通株式1株当たり帳簿価額 (e)				\$ 558.56	\$ 430.69	29.7
AIG 株主資本の見積普通株式1株当たり帳簿価額 (f)				\$ 45.63	\$ 29.90	52.6
平均発行済み株式 - 希薄化後	135.9	135.3		135.8	135.3	

財務ハイライト特記事項

* 規定 G に従った調整を含んでいます。

- 特定の勘定は、2010年度の表示に合わせるため2009年度の結果では再分類されています。
- ヘッジ会計処理を行う要件を満たしていない為替差損益を含むヘッジ取引からの利益 (損失) を含んでいます。
- 2010年3月31日、AIGは、チャーティス・インターナショナルの子会社を通じて、富士火災海上保険の議決権付株式を1.45億ドルで追加取得しました。この追加取得によって、約4.06億ドルのバーゲン・パーチェス・ゲインを計上しました。この取引が完了したのは2010年3月31日で、富士火災海上保険の保険契約、ローン、一部の不動産および無形資産の最終鑑定は完了していなかったため、2010年第1四半期には利益は計上されませんでした。2010年第2四半期には、AIGはこの取得に関する会計処理を実質的に完了し、当初計上した引当金を遡及調整しました。そのため、AIGは2010年第1四半期の営業損益を修正し、2010年上期および第1四半期にバーゲン・パーチェス・ゲインを計上しました。
- 連結されている特定のAIGが管理しているパートナーシップ、プライベート・エクイティおよび不動産ファンドからの利益 (損失) を含んでいます。これらの利益 (損失) は、継続事業の利益 (損失) の構成要素ではない、非支配的持ち分に帰属する継続事業の純利益 (損失) の中で相殺されています。
- AIG株主資本合計を発行済み普通株式で割ったものを示しています。
- 発行済みエクイティ・ユニットおよび優先株に関するAIG株主資本を調整して算出した見積普通株式1株当たり簿価額を示します。